発達心理学特論Ａ				単位数	2単位
授業コード	M4020	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達基礎論				

本授業の概要

認知・自己意識・社会性・言語・遊びの多領域にわたる発達の様相を，論文・専門書講読を通して理解する。また，生活・学習場面で躓きを示す幼児・生徒に対する実際的な支援例を学びながら，そうした子どもたちに向けた支援の可能性について，適宜，検討・議論する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	多領域にわたる発達の様相を，乳幼児期・児童期・青年期・成人期にわたり縦断的に学ぶとともに，そこに見られる個人差について理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	発達心理学の知見を踏まえ，生活・学習場面で躓きを示す幼児・生徒に向けた援助計画の立案・評価ができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポートに関しては，論理性やオリジナリティを考慮して評価する。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回：自己意識の発達Ⅰ
第 2 回：自己意識の発達Ⅱ
第 3 回：自己意識の発達Ⅲ
第 4 回：遊びの原理
第 5 回：遊びの発達Ⅰ
第 6 回：遊びの発達Ⅱ
第 7 回：社会性の発達Ⅰ
第 8 回：社会性の発達Ⅱ
第 9 回：言語の発達Ⅰ
第 10 回：言語の発達Ⅱ
第 11 回：認知・思考の発達Ⅰ
第 12 回：認知・思考の発達Ⅱ
第 13 回：発達障害
第 14 回：発達障害と生活支援
第 15 回：発達障害と学習支援

定期試験
最終レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（事前・事後各1時間、総計30時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時指示をする。
オフィスアワー
水曜日３限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項

発達心理学特論Ｂ				単位数	2単位
授業コード	M4030	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達基礎論				

本授業の概要

臨床発達の観点から、子どもの認知・言語・社会・情動の基礎的な発達理論を理解するとともに、そうした知見を、発達障害をはじめ多様な支援のニーズを有する子どもの支援に活かすことができる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	臨床発達の観点から、子どもの認知・言語・社会・情動の基礎的な発達理論を理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	基礎的な発達理論を、発達障害をはじめ多様な支援のニーズを有する子どもの支援に活かすことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポートに関しては，論理性やオリジナリティを考慮して採点する。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：子どもの発達・保育における今日的課題
第 ２ 回：子ども理解の多様なアプローチⅠ観察
第 ３ 回：子ども理解の多様なアプローチⅡアセスメント
第 ４ 回：子ども理解の多様なアプローチⅢインタビュー
第 ５ 回：子どもの発達と個人差　言語
第 ６ 回：子どもの発達と個人差　情動
第 ７ 回：子どもの発達と個人差　社会
第 ８ 回：子どもの発達と個人差　認知・思考
第 ９ 回：現場における子ども理解と支援　保育園
第 10 回：現場における保護者支援　保育園
第 11 回：現場における子ども理解と支援　子育て支援
第 12 回：現場における保護者支援　子育て支援
第 13 回：現場における子ども理解と支援　療育
第 14 回：現場における保護者支援　療育
第 15 回：発達理論にもとづいた援助計画の立案

定期試験
最終レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（各1時間、総計30時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
水曜日３限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項

大脳発達学特論				単位数	2単位
授業コード	M4090	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	林　泰資				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達基礎論				

本授業の概要

脳の発生・発達，構造，機能を学ぶことにより，人間の知覚，運動，情動，記憶，言語などの機能の発達を理解する。本科目履修により，脳機能の先天的，後天的，可変的な要素を理解し，人間の精神身体機能に見られる多様性の多くは、発達過程における脳の適応の結果であることを講義から理解させる。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	胎児期から老年期に至るまでの脳の発達について理解する。知覚，運動，情動，記憶，言語などの人間が持つ機能と脳の発達の関係性について理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題レポート（80%），質疑応答・受講状況（20%）などから総合的に評価する。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：脳とは何か（脳の発生・発達）
第２回：脳とは何か（脳の構造・機能）
第３回：感覚機能の発達（視覚）
第４回：感覚機能の発達（聴覚・平衡感覚）
第５回：感覚機能の発達（嗅覚）
第６回：感覚機能の発達（味覚）
第７回：感覚機能の発達（体性感覚）
第８回：脳・脊髄による運動制御
第９回：脳と意識（感情）
第10回：脳と意識（記憶）
第11回：脳と意識（言語）
第12回：脳と情報伝達（神経細胞のネットワーク）
第13回：脳と情報伝達（神経伝達物質）
第14回：脳と医療（脳の病気と障害）
第15回：まとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に与えられた資料に目を通しておくこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考資料，文献などを必要に応じて配付または紹介する。
オフィスアワー
１期：月曜日５限
連絡先
yhayashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
脳科学と周辺領域の書籍，学術雑誌などに目を通し，文献検索を行うなど，関係する情報について考察する機会をもつようつとめてほしい。

発達心理学演習Ａ				単位数	2単位
授業コード	M4140	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達基礎論				

本授業の概要

生涯発達心理学に関する理解を軸としながら、現代社会における人間の発達を取り巻く諸課題を、文献収集・講読・分析を通して明らかにする。それらの学びを踏まえたうえで、学生自らがリサーチクエッションを導出し、研究を計画する。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	学生は主体的な学びを通して、人間の発達を巨視的・微視的視点から分析・考察する能力を身につけるとともに、自らがリサーチクエッションを導出し、問題解決に向けた心理学的手法を具体的に計画することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎授業の発表内容やレポート、最終レポート（研究計画）に総合的に判断して評価する。 最終レポート（研究計画）７０％	1
2	発表内容・レポート３０％	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．乳児期から幼児期：心理学的基盤と現代の社会環境における諸問題（１）文献収集
２．乳児期から幼児期：心理学的基盤と現代の社会環境における諸問題（２）文献講読
３．乳児期から幼児期：心理学的基盤と現代の社会環境における諸問題（３）資料分析
４．乳児期から幼児期：心理学的基盤と現代の社会環境における諸問題（４）発表
５．学童期から青年期：社会的自立に向けた課題（１）文献収集
６．学童期から青年期：社会的自立に向けた課題（２）文献講読
７．学童期から青年期：社会的自立に向けた課題（３）資料分析
８．学童期から青年期：社会的自立に向けた課題（４）発表
９．成人期から高齢期：現代社会をよりよく生きるための諸課題（１）文献収集
10．成人期から高齢期：現代社会をよりよく生きるための諸課題（２）文献講読
11．成人期から高齢期：現代社会をよりよく生きるための諸課題（３）資料分析
12．成人期から高齢期：現代社会をよりよく生きるための諸課題（４）発表
13．リサーチクエッションの導出（１）文献整理
14．リサーチクエッションの導出（２）資料分析
15．研究の計画発表

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（事前・事後各1時間、総計30時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時指示をする。
オフィスアワー
水曜日３限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし

発達心理学演習Ｂ				単位数	2単位
授業コード	M4145	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達基礎論				

本授業の概要

生涯発達心理学に関する理解を踏まえたうえで、学生自らが導出したリサーチクエッションに対する問題解決に向け、研究を計画・実行し、発達心理学における新たな知見を提出する。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	発達心理学に関して、学生自らが導出したリサーチクエッションの問題解決に向け、心理学的手法を適応できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	研究を遂行するうえで、情報を収集・整理・分析し、発達心理学における新たな知見を提出する。また、論文執筆を通して、自ら得た知見とその意義を論理的に表現できる能力を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	毎授業の発表内容やレポート、研究成果論文をもとに総合的に判断して評価する。 研究成果論文７０％	1／2
2	発表内容・レポート３０％	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．研究・フィールドワークの実施報告ならびに先行研究の整理
２．研究・フィールドワークの実施報告ならびに論文構成の提出
３．研究・フィールドワークの実施報告ならびに分析方法の精査
４．研究・フィールドワークの実施報告ならびに問題点の修正
５．研究成果の中間報告
６．研究・フィールドワークの実施報告ならびに分析
７．研究・フィールドワークの実施報告ならびに考察
８．論文目的部分提出ならびに議論
９．論文方法部分提出ならびに議論
10．論文結果部分提出ならびに議論
11．論文考察部分提出ならびに議論
12．論文要旨作成ならびに校閲
13．完成論文の校閲
14．口頭発表準備
15．口頭発表ならびに省察

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（事前・事後各1時間、総計30時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時指示をする。
オフィスアワー
水曜日３限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし

教育実践特論ＩＡ				単位数	2単位
授業コード	M4210	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

本授業では、子どもの描画発達に関する文献を精読する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	到達目標１．子どもの発達と描画活動の関係について学ぶ。	知識・技能／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題提出 30%	1
2	口頭発表 30%	1
3	試験 40%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画
第 1 回：はじめに
第 2 回：『子どもの描画心理学』第 1 章　描画研究史の分類
第 3 回：『子どもの描画心理学』第 2 章　描画の特徴と発達段階
第 4 回：『子どもの描画心理学』第 3 章　定義
第 5 回：『子どもの描画心理学』第 4 章　アプローチの方法
第 6 回：『子どもの描画心理学』第 5 章　構成要素
第 7 回：『子どもの描画心理学』第 6 章　読み取る情報
第 8 回：『子どもの描画心理学』第 7 章　感情の伝達と芸術療法
第 9 回：『子どもの描画心理学』第 8 章　描画発達と才能
第 10 回：『子どもの描画心理学』第 9 章　芸術的特性
第 11 回：『子どもの描画心理学』第 10 章　議論と研究課題
第 12 回：美術教育の目的
第 13 回：日本の美術教育理論
第 14 回：世界の美術教育理論
第 15 回：まとめ
定期試験

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
課題や口頭発表のフィードバックは次の授業時に、定期試験は後日改めて行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の、計画にしたがった円滑な進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる（毎回60分）。準備の内容は、各授業ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
G・V・トーマス /A・M・シルク『子どもの描画心理学』りぶらりあ選書 / 法政大学出版局　『小学校学習要領』『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
必要に応じ適宜指示する。

教育実践特論ＩＢ				単位数	2単位
授業コード	M4220	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

本授業では、子どもの描画発達に関する様々な文献を精読する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	到達目標１．子どもの発達と描画活動の関係についてさらに学ぶ。	思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題提出 30%	1
2	口頭発表30%	1
3	試験40%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画
第 １ 回：はじめに
第 ２ 回：描画研究史の分類について
第 ３ 回：描画の特徴と発達段階について
第 ４ 回：定義について
第 ５ 回：アプローチの方法について
第 ６ 回：構成要素について
第 ７ 回：読み取る情報について
第 ８ 回：感情の伝達と芸術療法について
第 ９ 回：描画発達と才能について
第 10 回：芸術的特性について
第 11 回：議論と研究課題について
第 12 回：先行研究の総括について
第 13 回：課題の発掘　前編
第 14 回：課題の発掘　後編
第 15 回：まとめ
定期試験

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の、計画にしたがった円滑な進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる（毎回60分）。準備の内容は、各授業ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
『小学校学習要領』『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
必要に応じ適宜指示する。

教育実践特論ＩＩＡ				単位数	2単位
授業コード	M4260	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	片山　裕之、赤木　雅宣				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

全国学力・学習状況調査、OECD 加盟国による生徒の学習状況調査（PISA）、国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）などの結果をもとに、我が国の子どもの抱えている学力を多面的に分析する。そのうえで、小学校の国語（読解力、表現力）、図画工作（表現力、鑑賞力）に関して、より高度な総合的な指導技術を身に付けるため、カリキュラム開発、教材開発、形成的評価に基づく個別指導などの方策について、理論的な背景を検討するとともに、実際に構築し、現場での検証を行う。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	教科指導に関する理論的研究、調査的研究、開発的研究、実践的研究のあり方を理解して説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	専修免許取得に必要な専門的知識・技術と指導力を身につけて実践できる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・レポート作成、レポート発表（プレゼンテーション）、作品制作等　６０％	1
2	討論や体験活動等の様子　…２０％	2
3	制作に取り組む態度　　…２０％	2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中学校教諭、あるいは小学校教諭の経験を通して、学校現場（学級経営、教科指導、生徒指導等）で起こる様々な事象について解説する。
・新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、図画工作指導の在り方について、実際の活動を通して指導する。
・国語科指導に関する実務経験を活かし、模擬授業等を通して、理論的研究、実践的研究のあり方について指導する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回：PISA 調査、全国学力・学習状況調査から見る今日的課題について（内容理解）（片山）
第 2 回：PISA 調査、全国学力・学習状況調査から見る今日的課題について（課題の解決を探る）（片山）
第 3 回：図画工作科教育の現状と今日的課題（片山）
第 4 回：図画工作科「絵や立体で表す」領域の指導と造形力の育成（片山）
第 5 回：図画工作科「鑑賞」領域の指導と鑑賞力の育成（片山）
第 6 回：造形力育成に向けた教材開発のあり方（片山）
第 7 回：鑑賞力育成に向けた教材開発のあり方（片山）
第 8 回：国語科「読むこと」領域の指導と読解力の育成（読解力とは何（赤木）
第 9 回：国語科「読むこと」領域の指導と読解力の育成（読解力育成の方（赤木）
第 10 回：国語科「書くこと」領域の指導と表現力の育成（表現力とは何か）（赤木）
第 11 回：国語科「書くこと」領域の指導と表現力の育成（表現力育成の方（赤木）
第 12 回：国語科「話すこと・聞くこと」領域の指導と対話力の育成（赤木）
第 13 回：国語科「伝統的な言語文化」の指導と言語感覚の育成（赤木）
第 14 回：読解力育成に向けた教材開発と評価のあり方（赤木）
第 15 回：表現力育成に向けた教材開発と評価のあり方（赤木）
レポート作成とレポート発表

定期試験
最終レポート
試験のフィードバックの方法
最終レポート提出後、その内容についてコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・次回の内容を伝え、必要な資料を渡すので、予習してくること。（３０分程度を想定） ・制作が途中になった時には、復習の中で補うことがある。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし（授業の中で配布する。）
オフィスアワー
授業の中で伝える。
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp yukkuri@post.ndsu.ac.jp
留意事項

教育実践特論ＩＩＢ				単位数	2単位
授業コード	M4290	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	片山　裕之、赤木　雅宣				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

国語科・生活科・図画工作科・総合的な学習で培うべき学力を明らかにし、表現力、読解力、言語力、学習構想力、創造力、造形力、鑑賞力、課題解決力などの育成を目指した小学校低学年から高学年にかけての教育カリキュラムを構想する。その際、ScopeとSequence の両面から考察し、試案の作成を行う。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	表現力、読解力、言語力、学習構想力、創造力、造形力、鑑賞力、課題解決力などを育成するためのカリキュラム試案を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	教育実践に必要となる高度な専門的資質と能力を身につけて、模擬授業等で実践することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・レポート作成とレポート発表（プレゼンテーション）、作品６０％	1
2	討論等の様子　２０％	2
3	体験、制作等の態度　　２０％	2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務経験あり

実務経験の授業への活用方法

義務教育諸学校教諭の体験経験を活かして、学校現場（学級経営、教科指導、生徒指導等）で起こる様々な事象について解説する。
・新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から図画工作科指導にあたる。様々な図画工作（表現、鑑賞等）の活動を通して、どのように観察力、想像力、描写力、鑑賞力、表現力を培うかを伝える。
・小学校での授業構想、授業実践等の体験を活かして、学校現場で求められる授業立案と実践について解説し、専門的資質を身に付けることができるようにする。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回：体験的な学習と問題解決的な学習について（それぞれの意義）　（片山）
第 2 回：体験的な学習と問題解決的な学習について（学習の展開）　（片山）
第 3 回：社会教育の中で培う図画工作科の学力について　（片山）
第 4 回：生活科、総合的な学習の中で培う創造力について　（片山）
第 5 回：創造力育成カリキュラム作成　（片山）
第 6 回：造形力育成カリキュラム作成　（片山）
第 7 回：鑑賞力育成カリキュラム作成　（片山）
第 8 回：生活科、総合的な学習の中で培う表現力・読解力について　（赤木）
第 9 回：生活科、総合的な学習の中で培う言語力について　（赤木）
第 10 回：生活科、総合的な学習の中で培う問題解決力（学習構想力）について
（赤木）
第 11 回：社会教育の中で培う国語科の学力について　（赤木）
第 12 回：家庭教育の中で培う国語科の学力について　（赤木）
第 13 回：言語力育成カリキュラム作成Ⅰ（就学前～小学校入門期）　（赤木）
第 14 回：言語力育成カリキュラム作成Ⅱ（小学校低学年～小学校中学年）（赤木）
第 15 回：言語力育成カリキュラム作成Ⅲ（小学校高学年～中学校）　（赤木）
レポート作成とレポート発表

定期試験
最終レポート
試験のフィードバックの方法
最終レポート提出後に、その内容についてコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の中で、次回学習内容として配布した資料等について、予習してくること。（30分程度を想定）
必携書（教科書販売）
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要な資料は、授業の中で配布する。
オフィスアワー
授業の中で知らせる。
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp yukkuri@post.ndsu.ac.jp
留意事項

教育実践特論ＩＩＩＡ				単位数	2単位
授業コード	M4320	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	青山　新吾				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

我が国のインクルーシブ教育の考え方や現状について、特別支援教育、人権視点、社会モデル等の斬り口から包括的に取り扱う。また、障害のある子どもだけに限定しない子どもの生きづらさを踏まえた上で、インクルーシブ教育を段階的に推進していくために現時点で求められる「特別支援教育の視点を取り入れた保育・教育」の実際についての調査と発表を重ね、ディスカッションを展開する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	インクルーシブな保育や教育を進めるために必要な障害観や人権視点について考察を進めて、自身のことばで表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	子どもの多様な生きづらさについて理解し発表できる。	知識・技能／主体性
3	「特別支援教育の視点を取り入れた保育・教育」について、その現状や意味について理解し発表できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	「特別支援教育の視点を取り入れた保育・教育」とインクルーシブ教育の関連について検討し、自分のことばで表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・授業内の発表　50%	1／2／3／4
2	・最終レポート（口頭試問含む）　50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

学校教員や教育行政職としての経験を活かし、学校教育現場での具体的なエピソードや実践的知見を扱いながら授業を展開する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1回インクルーシブ
2特別支援教育
3障害の社会モデル
4　　障害の社会的生成と現在の課題
5回権の視点から～障害者の権利に関する条約を読み解く～
6回権の視点から～差別と排除を生み出す要因～
7回きづらさのある多様な子どもたちの調査
8回きづらさのある多様な子どもたちの発表
9特別支援教育の視点を取り入れた保育・教育
10特別支援教育の視点を取り入れた保育・教育の調査
11特別支援教育の視点を取り入れた保育・教育の発表
12特別支援教育の視点を散り入れた保育・教育現場の参観
13特別支援教育の視点を散り入れた保育・教育現場の整理
14特別支援教育の視点を取り入れた保育・教育現場の発表
15回とめ

定期試験
16　最終レポートの提出及び最終口頭試問の実施
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回のテーマに関して,関連文献の購読等の丁寧な準備を期待する。毎回９０分程度の事前学修を想定している。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『エピソード語りで見えてくるインクルーシブ教育の視点』青山新吾,学事出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
<参考書> 『差別のない社会をつくるインクルーシブ教育』野口晃菜・喜多一馬,学事出版 『差別はたいてい悪意のない人がする』キム・ジヘ、大月書店 『障害理解のリフレクション　行為と言葉が描く＜他者＞と共にある世界』佐藤貴宣・栗田季佳、ちとせプレス 『「発達」を問う　今昔の対話　制度化の罠を超えるために』浜田寿美男、ミネルヴァ書房 『インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと』青山新吾・岩瀬直樹,学事出版 その他,講義中に適宜紹介する。
オフィスアワー
講義内で指示する。メール等にて適宜アポイントメントを取って相談に応じる。またメールとでの質問、相談は適宜受け付ける。
連絡先
saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項

教育実践特論ＩＩＩＢ				単位数	2単位
授業コード	M4330	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	青山　新吾				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

先ず、我が国以外の諸外国（イタリア、アメリカ、オランダ）のインクルーシブ教育の考え方やその状況について概観する。その後、多重知能理論の考え方を踏まえるなど、学習者視点からの授業の在り方や多様な実態の子どもの学びに焦点化しながら調査、発表を重ねることで、インクルーシブな学校の在り方について検討する。また更に、地域と学校教育の関連という学校外との関係性の視点からインクルーシブ教育について概観し、今後の我が国のインクルーシブ教育の向かうべき方向と考え方について深めていきたい。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	諸外国のインクルーシブ教育の考え方と在り方について理解し発表できる。	知識・技能／主体性
2	学習者視点からの授業の在り方や、多様な実態の子どもの学びを理解し発表できる。	知識・技能／主体性
3	地域と学校教育の関連からインクルーシブ教育について概観し、その関係性を自分のことばで表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	諸外国の考え方や状況、多様な実態の子どもの学び、地域との関連性を包括的に捉え、我が国のインクルーシブ教育の向かうべき方向と考え方について自分自身のことばで表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・講義内で複数回の発表を求める　50%	1／2／3
2	・最終レポート（口頭試問含む）　50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

学校教員や教育行政職としての経験を活かし、学校教育現場での具体的なエピソードや実践的知見を扱いながら授業を展開する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　多様な子どもたちの存在を前提とした教育
2　世界のインクルーシブ状況　イタリア
3　世界のインクルーシブ教育状況　アメリカ
4　学びやすい学び方～マルチプルインテリジェンスを例に～
5　イエナプラン校の実践調査
6　イエナプラン校の実践発表
7　令和の日本型学校教育
8　個別最適な学びとインクルーシブ教育
9　探究学習とインクルーシブ教育
10　インクルーシブな学校とは
11　ソーシャルインクルージョン
12　地域とインクルーシブ教育　ぷれ・ジョブ
13　地域とインクルーシブ教育　こたえのない学校
14　地域とインクルーシブ教育　街づくり
15　総括討論

定期試験
16　最終レポートの提出及び最終口頭試問の実施
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回のテーマに関して、関連文献の購読等の丁寧な準備を期待する。毎回９０分程度の事前学修を想定している。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ 『イタリアのフルインクルーシブ教育』アントネッロ・ムーラ, 明石書店 『アメリカの教室に入ってみた』赤木和重, ひとなる書房 『インクルーシブな学校をつくる―北欧の研究と実践に学びながら』石田祥子・是永かな子・眞城知己、ミネルヴァ書房 『イエナプラン　共に生きることを学ぶ学校』フレーク・フェルトハウズ　ヒューバート・ウインタース, ほんの木 『学習する学校　子ども・教員・親・地域で未来の学びを創造する』ピーター・Ｍ・センゲ、英治出版 その他、講義中に適宜紹介する。
オフィスアワー
講義中に指示する。電子メール等での相談、質問は適宜受け付ける。
連絡先
saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項

発達支援論演習ＩＡ				単位数	2単位
授業コード	M4340	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

本授業では、幼児の描画発達とその周辺領域にあるカレントな問題を発掘し、美術的・教育的視点により解明していく。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	到達目標１．広い視野に立って問題の所在を明らかにし研究課題を設定することができる。	知識・技能
2	到達目標２．研究計画を立案し、それにしたがって分析・考察を進めることができる。	主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	研究課題に対する情熱（到達目標１）50%、研究に対する姿勢（到達目標１・２）50%の総合評価とする。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

授業計画
第 1 回：論文の構成
第 2 回：文献・資料の調査方法
第 3 回：参考文献・資料の引用
第 4 回：論理の構築と日本語表現
第 5 回：主題の選定
第 6 回：美術教育に関する先行研究（国内）
第 7 回：美術教育に関する先行研究（海外）
第 8 回：先行研究の概観
第 9 回：研究計画の作成①（背景と目的）
第 10 回：研究計画の作成②（方法と内容構成）
第 11 回：文献の整理①美術教育関連図書
第 12 回：文献の整理②描画心理学関連図書
第 13 回：文献の分析①幼年造形教育
第 14 回：文献の分析②図画工作科教育
第 15 回：文献の考察
定期試験

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の、計画にしたがった円滑な進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる（毎回60分）。準備の内容は、各授業ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
必要に応じ適宜指示する。

発達支援論演習ＩＢ				単位数	2単位
授業コード	M4345	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

本授業では、幼児の描画発達とその周辺領域にあるカレントな問題を発掘し、美術的・教育的視点により解明していく。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	到達目標１．立案している研究計画にしたがって分析・考察を進めることができる。	思考・判断・表現力／主体性
2	到達目標２．成果をまとめ、論文を執筆する研究能力を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	研究課題に対する情熱（到達目標１）50%、研究に対する姿勢（到達目標２）50%の総合評価とする。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

授業計画
第 1 回：文献の考察
第 2 回：資料の整理
第 3 回：資料の分析と考察
第 4 回：文献および資料の分析と考察
第 5 回：執筆①問題の所在
第 6 回：執筆②先行研究
第 7 回：執筆③内容構成
第 8 回：執筆④分析方法
第 9 回：執筆⑤分析と考察
第 10 回：執筆⑥検証と解明
第 11 回：執筆⑦総括的考察
第 12 回：執筆⑧全体の校閲
第 13 回：註・参考資料・文献の確認
第 14 回：アブストラクト作成
第 15 回：総括と講評
定期試験

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の、計画にしたがった円滑な進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる（毎回60分）。準備の内容は、各授業ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
必要に応じ適宜指示する。

発達支援論演習ＩＩＡ				単位数	2単位
授業コード	M4350	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	片山　裕之				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

本授業では、人間の描画行動について、様々な描画体験及び発達、美術、感性教育などの様々な視点から研究をおこなう。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	立案している研究計画にしたがって体験、分析、考察を進めることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	体験成果をまとめ、論文を執筆する研究能力を身につける	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	制作に取り組む姿勢　２０点	1／2
2	制作作品・レポート・論文　８０点	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導にあたる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画
第 １ 回：研究テーマおよび研究計画の構想
第 ２ 回：文献の考察
第 ３ 回：資料の分析と考察
第 ４ 回：風景画制作①（構想段階における主観的体験）
第 ５ 回：風景画制作②（素描段階における主観的体験）
第 ６ 回：風景画制作③（素描段階における主観的体験）
第 ７ 回：制作体験のリフレクション
第 ８ 回：風景画制作④（彩色段階における主観的体験）
第 ９ 回：風景画制作⑤（彩色段階における主観的体験）
第 10 回：風景画制作⑥（彩色段階における主観的体験）
第 11 回：制作体験のレフレクション
第 12 回：風景画制作⑦（彩色段階における主観的体験）
第 13 回：風景画制作⑧（彩色段階における主観的体験）
第 14 回：分析と考察
第 15 回：総括と講評

定期試験
作品・レポート・
試験のフィードバックの方法
レポート・作品はその都度提出後評価説明をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業計画にしたがった円滑な制作、研究進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜指示する
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
授業態度、出席は大切に扱います。

発達支援論演習ＩＩＢ				単位数	2単位
授業コード	M4355	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	片山　裕之				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

本授業では、人間の描画行動について、様々な描画体験及び発達、美術、感性教育などの様々な視点から研究をおこなう。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	立案している研究課題にしたがって体験、分析、考察を進めることができる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	体験成果をまとめ、論文を執筆する研究能力を身につける	知識・技能
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	制作に取り組む姿勢　２０点	1
2	作品・レポート・論文　８０点	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導にあたる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回：研究テーマおよび研究計画の構想
第 2 回：文献の考察
第 3 回：資料の分析と考察
第 4 回：人物画制作①（構想段階における主観的体験）
第 5 回：人物画制作②（素描段階における主観的体験）
第 6 回：人物画制作③（素描段階における主観的体験）
第 7 回：制作体験のレフレクション
第 8 回：人物画制作④（彩色段階における主観的体験）
第 9 回：人物画制作⑤（彩色段階における主観的体験）
第 10 回：人物画制作⑥（彩色段階における主観的体験）
第 11 回：制作体験のリフレクション
第 12 回：人物画制作⑦（彩色段階における主観的体験）
第 13 回：人物画制作⑧（彩色段階における主観的体験）
第 14 回：分析と考察
第 15 回：総括と講評

定期試験
作品・レポート
試験のフィードバックの方法
レポート・作品はその都度、提出後評価説明をおこなう
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業計画にしたがった円滑な制作、研究進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜指示する
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
授業態度、出席は大切に扱います

児童文学特論				単位数	2単位
授業コード	M4370	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	村中　李衣				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

日本の児童文学史上、重要な意味をもつ月刊物語絵本「こどものとも」を 1956 年創刊時から 60 年を経た 2013 年まで読み通し、時代背景や児童観の変遷と絡めて考察を進めていく。

授業前半は敗戦後の自由と創造を希求する空気がどのように反映されたか、当時の編集者の証言や、同時代の外国の絵本事情との比較検討なども織り交ぜながら、論じていく。

授業後半は、受講生が自らの調査テーマを設定しそれに基づいて戦後日本の絵本史を新たな視点で論じる。そのための適切な分析手法も学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	数々のロングセラー絵本の出発点となった、福音館書店の月刊物語絵本が、戦後日本の児童文学界に果たした役割を授業内のディスカッションで理解する。	知識・技能
2	松居直という一編集者の試行錯誤の軌跡と実際に手がけた作品ごとの編集過程を照らしあわせることで、絵本とはいかなるものであるのかを理解し、段階を踏んで文章にまとめることができるようになる。	思考・判断・表現力／主体性
3	戦後絵本を受講生自らが一つのテーマに沿って検証することで新しい時代の新しい絵本について論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	テーマに沿った適切な分析方法を選べる。	知識・技能／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業内でのディスカッションへの取り組みの姿勢（20%）。	1／4
2	授業でのディスカッションを経た毎回のレポート（40%）	2
3	自主課題設定による最終レポート（40%）	3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 一 回：月刊物語絵本の役割
第 二 回：編集者と絵本
第 三 回：「こどものとも」以前の月刊絵本
第 四 回：創刊号誕生前後
第 五 回：試行錯誤の時代
第 六 回：新しい絵本表現の挑戦
第 七 回：絵本作家の成長
第 八 回：絵本の常識を超える
第 九 回：子どもの発達に合わせて（個性的な絵本の登場）
第 十 回：社会の変動を捉えて
第十一回：編集体制の変化と作品の変化
第十二回：新しい絵本作家の台頭
第十三回：月刊絵本のこれから
第十四回：月刊絵本の研究（データベース作り）
第十五回：月刊絵本の研究（データベース作りのまとめ）

定期試験
毎回の授業後に自主課題設定を行い、それに関するレポート提出50% 最終研究レポート　50%
試験のフィードバックの方法
提出された毎回のレポートに関してはすべてコメントをつけて返却し、疑問点に関しても個別で対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
第一回から第十二回までは、毎回授業後に次回の自主課題を設定し、それに関する取り組みをレポート提出するべく準備する。（2時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考書：松居直著「松居直と『こどものとも』」（ミネルヴァ書房）を授業で用いる
オフィスアワー
受講生との相談で決定する。また授業終了後は教室で質問を受け付ける。
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽特論					単位数	2単位
授業コード	M4380	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	池田　尚子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	発達支援論					

本授業の概要

児童の豊かな感性を育み，多様な音楽表現を引き出すためには，教員自らの感性と，音楽表現力が豊かであることが大切である。本授業では，そのために最低限必要な発声の基礎を知り，多様な舞台芸術作品に触れることにより，教育現場において役立つ歌唱技術や表現方法を習得する。幅広い音楽に触れ表現することにより，表情豊かに表現する力も養う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	歌うための呼吸法と発声法を理解し身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽を読み取り，曲にふさわしい表現ができるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	日本語の発音を明確に歌唱できるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	授業をきっかけに自ら音楽鑑賞をし，コンサートやオペラ，ミュージカルに足を運ぶようになる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の意欲・態度　50%	1／2／3／4
2	実技・レポート課題　50%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．導入：授業内容の説明（姿勢・呼吸について）
２．子どもの音楽的発達を知ろう
３．発声の訓練① 表情・口形について。ヴォカリーズで，自然な発声を身に付ける
４．発声の訓練② 響きについて。ヴォカリーズで，自然な発声を身に付ける
５．歌唱の訓練Ⅰ①　共通教材より曲目の選定・作品解釈と歌詞の朗読。リズム・音程に注意する
６．歌唱の訓練Ⅰ②　楽譜から作曲者の意図を考察し，フレーズを意識した呼吸法を考える
７．歌唱の訓練Ⅱ①　共通教材より曲目の選定・作品解釈と歌詞の朗読。日本語の発音に注意する
８．歌唱の訓練Ⅱ②　楽譜から作曲者の意図を考察し，フレーズを意識した呼吸法，曲に適した発声法を考える
９．鑑賞①　オペラ・ミュージカルについて
10．鑑賞②　オペラ・ミュージカル鑑賞
11．鑑賞③　さまざまな楽器オーケストラ作品について
12．鑑賞④　オーケストラ作品・器楽作品を鑑賞
13．教材の選択①　歌唱教材
14．教材の選択②　鑑賞教材
15．歌唱表現の指導をする際の留意点

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として,毎回の授業で出された課題に取り組み,次回の授業で発表してもらう。事後学習として,指摘のあった事項についての課題に取り組み,意見をまとめてくること。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜配布する
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

美術特論				単位数	2単位
授業コード	M4400	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	片山　裕之				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

美術概論、絵画表現、鑑賞の三分野を必要に応じて演習を交えながら授業を進める。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	美術全般に関する知識、関心を深めることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	実技を通して描くことの楽しさを味わうとともに、技術の向上をはかることができる。	知識・技能
3	鑑賞に関する知識、興味を深めることができる	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	作品・レポート・発表　　…７０点	1／2
2	授業態度　　…３０点	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、美術全体の指導にあたる。表現活動、鑑賞活動を通して、観察力、想像力、描写力、鑑賞力を身につけるとともに、美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回　美術概論Ⅰ　（造形表現の意義）
第 2 回　美術概論Ⅱ　（鑑賞の意義）
第 3 回　絵画表現Ⅰ　（人物画の制作）
第 4 回　絵画表現Ⅱ　（人物画の制作）
第 5 回　絵画表現Ⅲ　（人物画の制作）
第 6 回　絵画表現Ⅳ　（人物画の制作）
第 7 回　絵画表現Ⅴ　（人物画の制作）
第 8 回　鑑賞Ⅰ　（西洋美術史・古代から現代）
第 9 回　鑑賞Ⅱ　（西洋美術史・古代から現代）
第 10 回　鑑賞Ⅲ　（西洋美術史・古代から現代）
第 11 回　鑑賞Ⅳ　（日本美術史・飛鳥時代から江戸時代）
第 12 回　鑑賞Ⅴ　（日本美術史・飛鳥時代から江戸時代）
第 13 回　鑑賞Ⅵ　（日本美術史・飛鳥時代から江戸時代）
第 14 回　美術館見学Ⅰ
第 15 回　美術館見学Ⅱ

定期試験
作品提出、レポート提出、総合批評会
試験のフィードバックの方法
作品、課題レポートはその都度、提出後評価説明をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業計画にしたがった円滑な講義・演習進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する。
必携書（教科書販売）
西洋美術史　、高階秀爾、美術出版社
必携書・参考書（教科書販売以外）
西洋美術史、高階秀爾、美術出版社
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
katayama @post.ndsu.ac.jp
留意事項
授業態度、出席は大切に扱います。指定された美術全集・画集等は図書館、美術研究室のものを利用する。

特別支援教育特論				単位数	2単位
授業コード	M4410	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	東　俊一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

特別支援教育の概要を理解したうえで、その対象、実践方法、役割と連携のありかたについて学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	障害理解だけでなく、具体的な支援方法の理解・支援計画作成、および生涯にわたる支援について理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業内での発表（50/100）	1
2	レポート（50/100）	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験から、特別支援教育現場における支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：特別支援教育の意義と理念
第 ２ 回：特別支援教育の制度概要と支援体制
第 ３ 回：障害概念と特別な教育ニーズ
第 ４ 回：知的障害の実態把握とアプローチ
第 ５ 回：学習障害の実態把握とアプローチ
第 ６ 回：ＡＤＨＤの実態把握とアプローチ
第 ７ 回：ＡＳＤの実態把握とアプローチ
第 ８ 回：個別の指導計画の理解と作成
第 ９ 回：個別の教育支援計画の理解と作成
第 10 回：校内支援体制の重要性と構築
第 11 回：地域支援ネットワーク
第 12 回：就学前期における課題と個別支援
第 13 回：学齢期における課題と個別支援（生活支援、学習支援）
第 14 回：学齢期における課題と個別支援（行動支援、対人関係の支援）
第 15 回：就労に関する課題と個別支援

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜、指示・紹介する
オフィスアワー
月曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

社会教育特論				単位数	2単位
授業コード	M4420	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西井　麻美				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

今日の社会教育の在り方に関して、国際社会及び我が国の政策や実践の動向を踏まえた検討を行い、社会教育・生涯学習の領域での人材育成の観点を明らかにしていく。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会教育・生涯学習に関する実践と理論について把握することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	これからの社会に求められる人材育成の在り方について、自分なりの見解を見いだすことができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	提出課題（レポート）５0%	1／2
2	授業への参加態度・発表　５0%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回　オリエンテーション
第 ２ 回　今日の社会教育・生涯学習の課題
第 ３ 回　社会教育の理論（１）学習論
第 ４ 回　社会教育の理論（２）組織論
第 ５ 回　生涯学習の理論（１）ラングランによる生涯教育の提唱
第 ６ 回　生涯学習の理論（２）ジェルピによる生涯教育論
第 ７ 回　社会教育・生涯学習の基盤（１）法規
第 ８ 回　社会教育・生涯学習の基盤（２）社会教育・生涯学習関連施設と実践
第 ９ 回　ESD とは
第 10 回　国連 ESD・SDGs 政策
第 11 回　岡山における ESD・SDGs プロジェクト
第 12 回　地域の ESD・SDGs 活動
第 13 回　これから ESD・SDGs を展開していくために：グループ討議・発表
第 14 回　これからの社会に求められる人材育成：グループ討議・発表
第 15 回　まとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各回の授業内容に関連する資料を事前に調べる（1時間）。授業で触れた内容の理解を深めるため事後に関連する図書や資料を精読する（1時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献 西井麻美・藤倉まなみ・大江ひろ子・西井寿里編著『持続可能な開発のための教育（ESD）の理論と実践』　ミネルヴァ書房　2012 年, 西井麻美・池田満之・治部眞里・白砂伸夫編著『ESD がグローバル社会の未来を拓く SDGsの実現をめざして』　ミネルヴァ書房　2020 年
オフィスアワー
授業終了後（長時間の相談が必要な場合、日時を打ち合わせる）
連絡先
マナバフォリオに質問・連絡用スレッドをたてる。
留意事項
地域の社会教育活動について、視察や参加をするなどして、実際に即した検討を行ってもらいたい。

生徒指導特論				単位数	2単位
授業コード	M4430	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	中内　みさ				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達支援論				

本授業の概要

「生徒指導提要（改訂版）」を軸に生徒指導に関する論文のレビューを通して、生徒指導の基礎的理論・意義や課題、学校における体制づくり、子どもをめぐって地域社会・学校が抱える今日的問題解決のために生徒指導が果たす役割などを検討し、理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	生徒指導の意義と課題を説明することができる。	
2	学校における生徒指導体制と関連諸機関との連携に関して説明することができる。	
3	子どもをめぐる地域社会や学校の問題を解説できる。	
4	子ども支援のために生徒指導が果たす役割を説明できる。	
5	生徒指導の計画を提案することができる。	

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表（30%）	1／2／3／4
2	討論への積極的な参加（30%）	1／2／3／4
3	レポート（40%）	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：生徒指導の基本的な進め方
第 3 回：生徒指導の基礎
第 4 回：生徒指導と教育課程
第 5 回：チーム学校による生徒指導体制
第 6 回：学校における危機管理
第 7 回：いじめ
第 8 回：暴力行為と少年非行
第 9 回：児童虐待
第 10 回：自殺
第 11 回：中途退学と不登校
第 12 回：インターネット・携帯電話にかかわる問題
第 13 回：性に関する問題
第 14 回：多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導
第 15 回：まとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業前には「生徒指導提要（改訂版）」の指定された箇所および内容に関連した文献を読み、発表のためのレジュメにまとめる（約40分） 授業後は、討論内容を振り返り、意見やコメント、それに対する自分の考えなどをまとめておく（約30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
【必携書】 文部科学省（2022）生徒指導提要（改訂版） 　＊現在、デジタルテキストで公開されている。文部科学省のホームページから入ってダウンロードできる。 それ以外の資料等は随時指示する。
オフィスアワー
月曜日の4時限目、水曜日の3時限目
連絡先
中内　mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
授業では毎回プレゼンテーションや討論を行うので、自分の意見、批判的態度をもつこと。また、「生徒指導提要（改訂版）」はデジタルテキストなので、ノートパソコンやタブレットなどを持参してください。用意できない場合はこちらで用意しますので、相談してください。もちろんテキストをプリントアウトしたものを持参しても構いません。

保育内容特論（人間関係）				単位数	2単位
授業コード	M4512	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	三宅　一恵				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				

本授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示された領域「人間関係」のねらい及び内容等を読み解くとともに、幼児期における人間関係の発達を促す保育のあり方を検討する。また、幼児理解や指導計画作成など、保育技術の向上につながる学びを深める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・教育実習や実践の振り返りを行いながら、課題や成果を明らかにし、その改善点を考えることができる。	
2	・領域「人間関係」を中心とした保育内容の専門的な理解を深め、幼児理解とともに保育の構想や指導計画作成などの保育技術の向上に活かすことができる。	
3	・現代の保育現場の課題を踏まえて自分の問題意識を明瞭化し、課題研究のテーマ設定につなげることができる。	
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での意欲・態度・姿勢　40点	
2	課題レポート　60点	
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：保育実践の振り返りの意義
第２回：幼児理解の観点からの振り返りと課題の把握
第３回：保育内容の観点からの振り返りと課題の把握
第４回：環境構成の観点からの実践の改善
第５回：領域「人間関係」の観点からの実践の改善
第６回：学級経営の観点からの実践の改善
第７回：人間関係を育む教師の役割と環境構成
第８回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」からみた実践の改善
第９回：協同的な学びを育む観点からみた実践の改善
第10回：保育者集団の観点からみた実践の改善
第11回：小学校教育とのつながりの観点からの実践の改善
第12回：指導案の作成Ⅰ（課題と研究を踏まえた保育の構想）
第13回：指導案の作成Ⅱ（模擬保育に向けた指導案の作成）
第14回：指導案の作成Ⅲ（模擬保育の実践と評価）
第15回：保育現場における現代的課題からの考察

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業を大切にし、授業後に振り返り整理しておくことが望ましい。また、次回授業への課題に積極的に取り組むこと。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月　文部科学省） 『保育所保育指針解説』（平成30年3月　厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
オフィスアワー
木曜２限、金曜２限
連絡先
k.miyake@m.ndsu.ac.jp
留意事項

保育内容特論（表現）				単位数	2単位
授業コード	M4514	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	池田　尚子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では，領域「表現」の中で，特に音楽表現に焦点をあてる。乳幼児期の子どもの発達と表現の特性を学び、感性や創造性を豊かにする表現遊びについて実践的に学ぶ。乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	知識・技能
2	協働して表現活動することを通して，様々な表現があることを知り，それに共感し，自己のより豊かな表現につなげていくことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	様々な表現の基礎的な知識・技能を生かし，幼児の表現活動に展開することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中に出す課題・発表へ向けての取り組み　50%	1／2
2	定期試験　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回：オリエンテーション　授業の概要及び授業展開について
第2回：領域「表現」のねらい及び内容の理解
第3回：乳幼児期の年齢的な発達と表現の特性の理解
第4回：身近な環境との関わりにおいて育まれる音楽的感性と表現
第5回：身の周りの楽器を使った表現活動
第6回：わらべうた遊びや手遊び歌から育まれる音楽的感性と表現
第7回：より豊かな表現活動に向けて（合唱・合奏）
第8回：ごっこ遊びや劇遊びを通して育まれる感性と表現
第9回：保育者の受け止めと援助について
第10回：総合的な表現（オペレッタ作り）　台本の検討（絵本や物語の選定・台本の作成・役決め）
第11回：総合的な表現（オペレッタ作り）　音楽の創作（効果音の創作・楽器の選択）
第12回：総合的な表現（オペレッタ作り）　音楽の選曲（劇にふさわしい歌唱教材の選曲・作曲）
第13回：総合的な表現（オペレッタ作り）　道具・衣装等の制作
第14回：総合的な表現　発表に向けての練習（合奏・合唱）
第15回：総合的な表現　発表
定期試験

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
定期試験終了後にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業外で準備や話し合いを行い，授業に臨むことが必要である。また，フィールドワークを実施する場合がある。探究テーマに関して資料を活用して調べたり，自分の意見をまとめたりしておくこと。また、授業時に出された課題を完成させて翌週の授業に臨むこと。(1時間程度)
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
「聴く・表現する 音楽力を育む！」　（熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社） 「こどものうた200」　（小林美実編、チャイルド本社） 「続・こどものうた200」　（小林美実編、チャイルド本社）
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

学校心理学特論				単位数	2単位
授業コード	M4520	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	多田　志麻子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理学				

本授業の概要

　学校心理学の理論や学校教育において一人ひとりの児童生徒が出会う不登校、非行、障害などの問題状況を学ぶ。また、問題状況の解決を援助し、児童生徒が成長することを促進する心理教育的援助サービスについて理論と実践の両側面から考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	児童生徒の問題を解決するために行う教師・保護者・カウンセラーの連携、児童生徒への援助、学校や社会の資源の活用などの心理教育的援助サービスについて理解し、説明できる。	
2	心理教育的援助サービスを実践できる。	
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での発表・討論への参加（40%）	1／2
2	レポート課題（60%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：学校心理学とは
第 ２ 回：学校心理学における３段階の心理教育的援助サービス
第 ３ 回：学校心理学と近辺領域との異同
第 ４ 回：児童・生徒のアセスメント
第 ５ 回：学校のアセスメント
第 ６ 回：不登校の理解
第 ７ 回：不登校への援助・介入
第 ８ 回：発達障害の理解
第 ９ 回：発達障害の援助・介入
第 10 回：問題行動，精神疾患の理解
第 11 回：問題行動，精神疾患の援助・介入
第 12 回：学校教育現場へのコンサルテーション
第 13 回：危機介入と緊急支援
第 14 回：学校心理士と倫理，守秘義務
第 15 回：今後の課題
レポート提出

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義形式授業後は、配布資料とノートを見直し、授業内容を復習し、次の授業に臨む（３０分）。 また、専門雑誌から学校心理学に関連する研究論文を選び、レジメを作成する。それに基づいて発表、議論を行う（２時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献：石隈利紀　学校心理学　誠信書房 窪田由紀・平石賢二編　学校心理臨床実践　ナカニシヤ出版 適宜資料を配布する。
オフィスアワー
質問は授業終了後またはメールで受け付ける。
連絡先
s9031@m.ndsu.ac.jp
留意事項
積極的に討論や実践に取り組み、学校心理学の専門家としての役割を体得して欲 しい。

心理検査特論				単位数	2単位
授業コード	M4530	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	中内　みさ				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				

本授業の概要

心理教育アセスメントに関して、基礎的な知識や実施する際の留意点などを理解する。また、知能理論や知能検査全般、特別支援のためのアセスメントを理解する。特に、WISC-Ⅳに関して、Essential of WISC-Ⅳ Assesssmen（(Flanagan,D.P&Kaufman,A.S) を参考にWISCの歴史的変遷や理論、実施方法や分析・解釈などに関して理解を深める。さらに、事例を基に、WISC-Ⅳが現場でどのように実施されているのか、結果をどのように解釈しどのように伝えているのか、支援にどのように反映するのかを検討する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	学校心理学における心理教育アセスメントの目的や意義、検査バッテリーの組み方などについて説明できる。	
2	心理尺度測定において、信頼性や妥当性の重要性や測定方法などを説明することができる。	
3	知能や知能検査に関して、主な理論を説明できる。	
4	実施法などWISC-Ⅳの概要を説明することができる。	
5	WISC-Ⅳの結果を解釈し，それに基づいて支援の方針を提案できる。	

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表（30%）	1／2／3／4／5
2	討論への積極的参加（30%）	1／2／3／4／5
3	レポート（40%）	4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：心理教育アセスメントの意義と目的
第 ２ 回：心理尺度測定の基礎的知識（信頼性、妥当性など）
第 ３ 回：心理教育アセスメントの基礎的知識（検査者の条件、バイアスなど）
第 ４ 回：知能理論
第 ５ 回：知能検査の歴史
第 ６ 回：特別支援のためのアセスメントに関して
第 ７ 回：WISCの解釈の歴史
第 ８ 回：WISC-Ⅳの信頼性と妥当性
第 ９ 回：WISC-Ⅳの構成とプロセス得点
第 10 回：下位検査の概要
第 11 回：WISC-Ⅳの実施
第 12 回：WISC-Ⅳの結果の分析と解釈１（プロフィール分析、VCI、PSI、WMI、PSI）
第 13 回：WISC-Ⅳの結果の分析と解釈２（評価）
第 14 回：事例から考える１（結果の伝え方を中心に）
第 15 回：事例から考える２（支援計画の立て方を中心に）

定期試験

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業前には、その回の授業で扱う内外の文献を読み、発表するためにレジュメなどにまとめる（約40～60分）。
授業後は、討論を通して得た知見や自分の意見などをまとめておく（約30分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

【参考文献】
Flanagan,D.P&Kaufman,A.S（2008）Essentials of WISC-Ⅳ Assessment　Second　Edition.　John Wiley & Sons.
随時指示する。

オフィスアワー

月曜日の4限目および水曜日の3限目

連絡先

中内　mnakauchi@post.ndsu.ac.jp

留意事項

WISCに関しては、英語文献も扱うので必ず英和辞書を持参してください。

教育心理学特論				単位数	2単位
授業コード	M4550	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	湯澤　正通				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				

本授業の概要

教育心理学の様々な理論や研究方法を踏まえ，現代社会の教育を批判的に見るための視点を深め，効果的な教育が成立するための認知的，社会的，文化的環境について議論する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもの考える力と言語力の育成，学習意欲などの現在の教育テーマに焦点をあて，相互作用アプローチを受講生自身が実践することで，教育心理学の視点から考える力を身につけることを目標とする。	
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業（話し合い）への積極的な参加の程度，およびそれぞれの学習テーマに関して，授業中に述べられた意見・出席状況等を勘案して評価する。	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：イントロダクション：教育心理学とは
第 ２ 回：現在の教育の課題（言語力）について考え，話し合う
第 ３ 回：社会の変化に対応する能力・資質：教育目標
第 ４ 回：社会の変化に対応する能力・資質：ニュージーランドを事例として
第 ５ 回：考える力（活用力），言語力，自己教育力をどのように育てるのか：認知的アプローチ，記憶と理解
第 ６ 回：考える力をどのように育てるのか：相互作用アプローチ，動機づけ
第 ７ 回：グループ間の交流と意見の多様化を促進する学級経営 ： ジグソー法の理論と実践
第 ８ 回：考える力についての視点１−自己制御学習，科学的リテラシー，教えて考える授業，活用力
第 ９ 回：考える力についての視点２−自己制御学習，科学的リテラシー，教えて考える授業，活用力
第 10 回： 21 世紀スキルを育む視点１：アン・ブラウン，ブランスフォード，スカーダマリア
第 11 回： 21 世紀スキルを育む視点２：アン・ブラウン，ブランスフォード，スカーダマリア
第 12 回： 21 世紀スキルを育む視点３：アン・ブラウン，ブランスフォード，スカーダマリア
第 13 回：現在の教育の課題（発達障害）について考え，話し合う
第 14 回：ワーキングメモリ理論からの児童生徒の学習支援（１）
第 15 回：ワーキングメモリ理論からの児童生徒の学習支援（２）

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜配布する
オフィスアワー
連絡先
留意事項